特集

命の責任

平成30年度、福島県内の猫の殺処分数は2，467匹。その数は全国1位でした。また、その中で約7割を占めるのが子猫です。今日もまた、小さな命の灯火が消えようとしています。

高齢化社会や核家族化といった社会の流れとともに一大ブームとなっているペット。「ペットは家族」とも言われるように、現在、多くの家庭で猫や犬をはじめとしたペットが飼われています。ペットは、その愛らしさから私たち人間を癒し、和ませてくれる存在として、私たち人間と共存してきました。

しかし、そのペットブームの陰に、大きな問題が潜んでいることを皆さんはご存知でしょうか。

30，757匹。これは平成30年度に全国で殺処分された猫の数です。私たち人間の無責任な飼育・管理により、多くの尊い命が失われています。特に福島県は、毎年のように殺処分数が上位に位置しており、喫緊の問題となっています。今こそ私たちは、猫との暮らし、そして命の責任について考えなければなりません。

命の責任は誰しもが持つ

ペットブームの陰に潜んでいた大きな問題。
ともに生きていくことを選んだ私たちが、
いつしかその選択を忘れ、命の責任を放棄した結果、
尊い命が失われていく「今」をつくっています。

福島県の猫事情

平成30年度、福島県で引き取られた猫の数は3，003匹。そのうち8割にあたる2，467匹が殺処分されています。

猫の引き取り・殺処分数については、引き取り数・殺処分数ともに年々減少傾向にある犬に比べて、増加と減少を繰り返し、大きく改善されることなく推移しており、結果として横ばいの状況が続き、福島県の猫事情は深刻な問題となっています。

特に乳離れをしていないような生まれて間もない子猫に関しては、動物愛護センターで引き取られたとしても、その後、譲渡できる大きさになるまで育てることは難しく、そのまま殺処分されることが多いのが現状です。

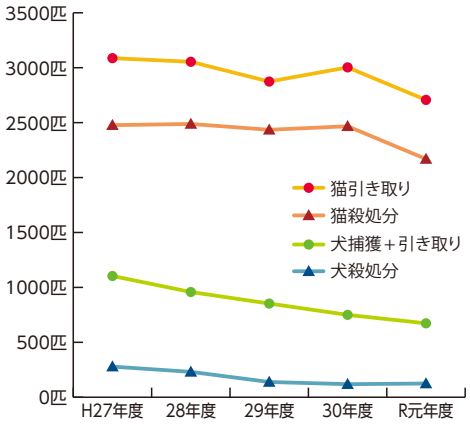


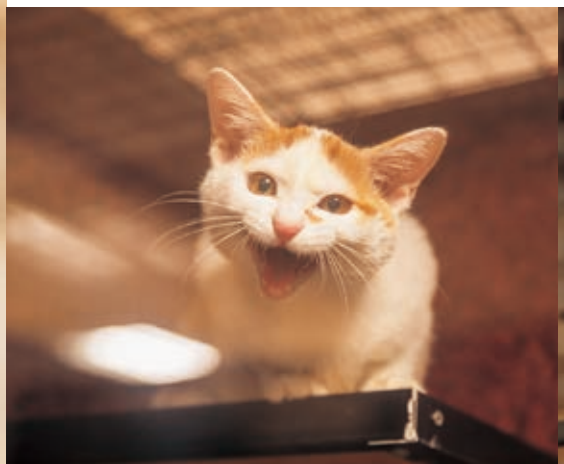
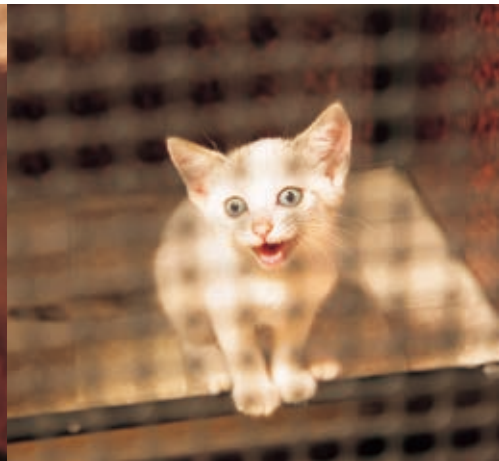
図１ 福島県の犬・猫の引き取り数と殺処分数

※福島県食品生活衛生課　食品衛生 動物愛護ホームページ「動物愛護管理業務実績（平成 14 年度～令和元年度、中核市含む）」をもとに作成

保護されるほとんどが子猫

川俣町を含む中通り地域（中核市を除く）の動物愛護管理事業を担う福島県動物愛護センターでは、令和元年度の猫の引き取り数が970匹と、犬の捕獲・引き取り数275匹の約4倍。また引き取られた猫のうち約7割が生まれて間もない子猫でした。

人間による無責任な飼育

連れてこられた猫の中には「不妊去勢しないで飼っていた猫が子猫をたくさん産んでしまって飼いきれない」「餌をあげていた野良猫が子どもを産んでしまった」「飼い主が亡くなって飼っていた猫の面倒を見る人がいない」など、私たち人間の身勝手な都合で連れてこられる猫も少なくありません。

猫舎の中から聞こえてくるのは
「生きたい」という叫びでした